令和6年度第2回かづの未来会議

日 時：令和6年11月28日（木）18時00分～20時00分

場 所：鹿角市役所第1～3会議室

出席委員 14名（欠席1名）

出席職員：[政策企画課] 課長、室長、主査、
主査、主任、主事

1 開会（進行：政策企画課）

ただいまから、令和6年度第2回かづの未来会議を開会いたします。

もれる

2 会長挨拶

今日は、第7次総合計画基本構想の見直しにあたって、市を取り巻く社会情勢について説明を受けたのち、鹿角市のあるべき姿とその実現に向けた取組について、グループに分かれてディスカッションいただきます。活発に意見を出していただきたいと思っておりますのでよろしくお願いします。

3 議事

資料1 第7次鹿角市総合計画基本構想（見直し案）について

説明：政策企画課

（政策企画課） 資料1 第7次総合計画基本構想（見直し案）をご覧ください。

かづの未来会議は、市民と地域の姿について意見交換し、その意見を総合計画に反映させることを目的としています。今年度は、総合計画の基本構想部分について議論したいと考えており、この資料は計画書の7ページから24ページまでを抜き書きしたものに、計画策定時からの社会変革の動きに加えて、第1回の未来会議で出された意見を考察部分に記載したものになります。

この基本構想については、市議会の議決を経て決定するものでして、今後この資料を基本として、市議会に説明をまいります。

それでは1ページをお願いします。計画書は7ページになります。個々の記載が次のグループディスカッションに深く関わる事項となりますので、ポイントを押さえて説明いたします。

第1章は記載のとおりですので変更はありません。第2章は今回の見直しについて記述します。

資料は2ページをお願いします。計画書は8ページです。

（1）本市の人口推移についてですが、右の考察にあるとおり、自然動態については出生数が想定よりも少なく、死亡数が高齢化により年々増加傾向にあり、本市の人口は近年2%ずつ減少している状況です。特に若年女性の減少率が著しく、令和2年度国勢調査での減少率は、尾去沢鉱山閉山時の

10.6%の減少に次ぐ、9.9%の減少となり、大変憂慮すべき状況となっています。老年人口も維持から微減する時期に突入しており、新たなフェーズへと移行しています。

(2)の将来人口推計は、5年に一度公表されており、令和5年推計へと置き換えをします。比較していただくと分かりますが、残念ながら前回推計を下回っており、特に生産年齢人口の減少が想定より進み、これに伴って年少人口も少なくなると推計されています。

資料は3ページをお願いします。計画書は9ページです。

(3)人口構造の若返りによる持続可能な社会システムの構築ですが、本市が目指すべき人口のあり方がここに記載されており、特に重要な箇所となります。4段落目、「人口減少をできるだけ緩やかにするためにも（中略）人口構造の若返りを図ることが必要です。」という部分が市の人口に対する目標となる部分です。右側の考察の3項目にあるとおり、若年女性の減少が将来的に自治体の消滅可能性がある」と指摘されています。国では、少子化の影響は未婚化・晩婚化の影響が大きいとしているほか、民間研究所でも根本原因は未婚化であり、生まれ育った地元に残れるような施策に力を入れるべきとの報告もあるところです。

表の中央をご覧ください。見直し案となりますが、「人口減少をできるだけ緩やかにするためにも、進学や就職で一旦転出した若い世代が戻ってきやすい環境づくりと、若者が本市で結婚し、子どもを安心して生み育てられる環境を整え、人口構造の若返りを図る」に見直しを図ります。

そのため、「総人口が減少しても、社会を形成する産業の担い手が活躍する持続可能な社会システムの構築を目指し、各世代の活力が地域で存分に発揮されるまちづくりを進める必要があります。」に加えて、人口が減少しても、地域社会を維持していく対応策も検討しなければなりません。定住人口だけではなく、関係人口など多様な人々とのつながりを大切にして、地域の持続的な発展を目指していく必要があるため、「新たな人口の捉え方として、「関係人口」にも着目し、その創出と拡大を図っていく必要があります。」を追記します。

続いて、「2. 地域経済の足止め」については、グローバル経済の影響について記載していましたが、近年のエネルギー・食料価格の高騰のほか、首都圏等への一極集中による、地域経済の縮小に置き換えます。3段落目、「雇用の場の確保が進んだ」という表現は、現在の背景には人口減少があると考えられるため削除し、働き方改革の必要性を追記します。3ページから4ページにかけての「産業構造については～」の記述は、現状に合わせた内容に置き換えます。

4ページをお願いします。計画書は10ページです。

未来技術の進展については、ここ数年で目覚ましい進展がありましたので、大幅に見直しを図っています。スマートフォンなどの移動通信システムが生活・社会基盤として進化したほか、対話型の生成AIが急速に発展し、活用が進んでいます。また、コロナ禍を背景に、非接触・非対面の生活様式が一層進展し、テレワークやオンライン、EC、電子決済などが浸透しています。一方で、デジタル利用の格差やセキュリティ・プライバシーへの懸念など、課題も顕在化しています。国においては、令和3年にデジタル庁が設置され、本市でもデジタルを活用した変革を進めていることから、引き続き、デジタルの恩恵をあらゆる人が享受できるようにするとともに、官民挙げてデジタル技術の実装を図り、暮らしの向上、経済の活性化、付加価値の創出につなげる必要があることを記述します。

次の「4. 国際化の新たな局面の到来」についてです。2段落目、人手不足はすべての産業で起きていること、このことを背景に「外国人労働者の増加」が進んでいることを記述します。3段落目、

外国人宿泊客数については、コロナ禍によって大きな打撃を受けたことを記述します。

5ページをお願いします。

令和3年7月に「大湯環状列石」が、世界文化遺産令和4年11月に「毛馬内の盆踊」が新たにユネスコ無形文化遺産に登録となり、4つの世界に誇る文化遺産があるまちとなったことを記述します。「5. 安全・安心を脅かすリスクの増大」については、熊をはじめとした鳥獣被害について追記します。

6ページをお願いします。

「6. 経済のグリーン化（経済成長と環境保護の両立）」についても、本市でも大きく変容した部分です。タイトルも、市が力を入れている「脱炭素社会の実現」に改めます。1段落目は国の最新の目標に置き換えます。2段落目は本市の素晴らしい自然を次世代に引き継ぐことは変更ありません。3段落目、「また、豊富な森林資源や電力自給率が400%を超える再生可能エネルギーを有しており～」は、本市は令和4年に全国に先駆けて2030年までに二酸化炭素排出量を実質ゼロにする「ゼロカーボンシティ」の実現を宣言したことを記述しています。4段落目、産業分野への展開については、近年脱炭素経営の取組が広がっています。脱炭素経営は企業のブランド価値や産業競争力を高めるほか、個人としての取組として脱炭素型ライフスタイルへの転換を進める必要があること。加えて、木材需要の高まりによって伐採が進む中、二酸化炭素吸収量を維持・拡大するため、森林整備が重要となっていることを記述します。

「7. 社会の成熟化に伴う価値観の変化」については、多様化へと見直します。SDGsの記述に加え、密接に関係し、近年注目されているウェルビーイングの記述を追加します。3段落目、地域のつながりの希薄化、自治会の機能低下、活動維持が難しくなっている一方、地方での自分らしい生き方を求めて移住者が増えつつあるとの記述は残しながら、関係人口づくりにこれまで以上に取り組む必要がある旨を記述します。

7ページをお願いします。

「8. 土地利用の量から質への転換」については、見直し箇所はありません。

「9. ひっ迫が懸念される地方財政」についてです。8ページをお願いします。計画書は13ページです。

地方公共団体の財源の確保においては、社会保障費の増大、税収の減少が懸念されます。こうしたなか、市の公共施設については、延べ床面積の50%以上が完成後30年以上を経過し、現在でも維持管理や更新需要が財政を圧迫している状況にあります。現在の人口、今後を見据えて、統合や廃止など適正配置が求められていることを記述します。このことは、総論賛成、何かを無くするとなると各論反対となりやすく、市の大きな課題となっています。次の市の財政の健全化を図る指標については、最新値へと置き換えますが、いずれも基準以下となり、すべて健全段階にあります。

以上で鹿角市を取り巻く社会情勢の説明を終わります。冒頭説明したとおり、ここに記載されていることが、次の議論、各基本戦略へとつながり、その議論が次年度以降の個別具体的な取組方針、事業へとつながっていきますので、次のグループディスカッションでの闊達な議論をお願いいたします。

- ・鹿角市のあるべき姿とその実現に向けた取組について（ディスカッション）
→別紙意見集のとおり

(会長) 本日出された意見については、事務局で整理して後日配付をお願いします。

(事務局) 次回は3月頃の開催を予定しています。若者アンケートの結果、人口ビジョン等についてご意見をいただきたいと思いますので、引き続きよろしくをお願いします。

6 閉会 (20:00 終了)